

会 議 録

会議名称	第4期幸区区民会議 第8回専門部会（みんなで見守りたい）
日時	平成25年8月26日（月）18時30分～20時10分
会場	幸区役所 5階第3会議室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ●区民会議委員（50音順） 神谷美和委員、古場敏光委員（部会長）、酒井清委員、 鈴木都委員、原紀代子委員、檜林照江委員、春田公江委員、 村田清子委員（副部会長）、遊佐栄津子委員 ●事務局 幸区役所 福芝康祐副区長 まちづくり推進部企画課 今村健二課長、加藤剛史係長、早川智文担当 株式会社計画技術研究所 佐谷和江 ●関連課 地域保健福祉課 中谷明美課長、高齢・障害課 大城敬子係長
欠席者	鈴木忠夫委員、戸張一吉委員
傍聴者	0名
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ●議事次第 ●資料1 「みんなで見守りたい」における調査審議について ●資料2 高齢者等の見守り体制づくりに向けたマニュアルのあり方（案） ●資料3 幸区で実施されている主な見守り活動の事例 ●資料4 見守り活動に関するヒアリングの対象団体等について ●資料5 「第4期幸区区民会議」スケジュール（案）
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 調査審議の方向性について 2 高齢者等の見守り体制づくりに向けたマニュアルのあり方について 3 ヒアリングの実施について 4 今後のスケジュールについて 5 その他
決定事項	<ul style="list-style-type: none"> ●今後、「チェックリスト」に掲載された事例ごとの関係機関の連絡先を整理していく。 ●ヒアリングの対象団体 <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター、川崎市介護支援専門員連絡会にヒアリングをする。 ・なぎさニュータウンについて、事務局で取材する。
会議の内容及び 主な発言	<ol style="list-style-type: none"> 1 調査審議の方向性について <ul style="list-style-type: none"> ●資料のとおり進める。 2 高齢者等の見守り体制づくりに向けたマニュアルのあり方（案） 【主な意見・質疑応答】 <ul style="list-style-type: none"> ●わかりやすく良いマニュアルができるのではないか。見守り活動の担い手の裾野を広げるという目的はすばらしい。民生委員の負担も軽くなるの

ではないか。

→記述の仕方によっては、民生委員に何でも頼れば良いような印象になってしまう恐れもあるので、そうならないように注意する必要がある。

●チェックリストの内容はこれで良いか。チェックリストの項目に該当した場合は、どこが相談できる関係機関になるのかわかるよう振り分けてはどうか。また、資料3の「活動事例」に、連絡先を追加してはどうか。

→資料3の「活動事例」については、連絡先又は所管部署を記載する。

→チェックリストの項目ごとに関係機関を明記することについては、複数の機関が重複するなど整理が難しいかもしれないが、次回までに案を作成してみる。

●例えば、「最近見かけない」場合を例として、対応策をいくつか上げてはどうか。

●見守り活動の例としては、基本的な考え方に合致したものを掲載した方がいい。

●「地域見守りネットワーク事業」については、区内でも、対象地域とそうでない地域があるのでは？

→コープかながわや京浜新聞販売組合等は、幸区全域を網羅した形で協定を結んでいる。

→たまたま今日、新聞販売所から新聞が溜まっているという通報が合った。亡くなってから3日経過しており、警察が現場検証した後だったが、新聞販売所には亡くなったことについて情報が行かなかったとのことだった。このような事例が徐々に始めている。

●事前に発見するには、新聞が溜まってからでは遅い。見守りは、コミュニケーションがないと機能しない。

→見守りが習慣になっていけば、そういった状況が変わっていくことも期待できるのではないか。

●チェックリストの始めの5項目で気づくのでは遅い。

→遅くなってしまうこともあるかもしれないが、まずは気がついた時にアクションを起こすことが大事なのではないか。

●資料3の「活動事例」について、具体的な事業者名も掲載していくのか。

→掲載していく方向で考えている。

●高齢者が住んでいることを近所の人に知らせておくことが大事だと思う。

●「活動事例」に掲載されているもの同士が、うまくリンクしている例はあるのか。各事例がリンクできれば、相乗効果が生まれるのではないか。

→それぞれの活動の交流についても提案できるとよい。

●「活動事例」の8～12は有償なのか。

→有償である。

→SOS ネットワークに入ると周りの人が探してくれ、早く保護される。

●徘徊している人を見つけたら、SOS ネットワークに連絡するのか？

→警察に連絡することになる。

- 事例は分類分けをして掲載した方が良い。
 - 「洗濯物が夜になっても干したまま」という場合は、どこに連絡したらいいのか？
 - 中学生でも読めばわかるマニュアルにしたい。
 - 異変を見つけた時に、どう行動したら良いかが書かれたマニュアルがほしい。
- それは一番重要だが、記述するのが難しいところでもある。
- 町内会に入っていないマンション等に、どう対応するか。
- 町内会は地域のために様々な活動を行っているが、そのことを知らない人も多いのではないかと。もっと活動を広報していく必要がある。
- 町内会が見守りを呼びかけるためのツールとしてマニュアルを機能させたい。

3 ヒアリングの実施について

【主な意見・質疑応答】

- ヒアリングをやる意味は何か。
- 見守り活動の具体例としてマニュアルに掲載すると、読み手は分かりやすいのではないかと。
- ヒアリングしても、既に把握している情報以上のものは聞けないのではないかと。
- 資料4の「2 見守りノウハウを学べる福祉関係機関・事業者」については、チェックリストを取りまとめる際に、有益な助言をもらえるのではないかと。「1 アンケート調査により把握した団体」は、実際に現場を見ることで、より深い理解ができるのではないかと。
- 「2」は、部会として聞きに行った方が良いと思うが、「1」と「3」は事務局で取材するのも良いと思う。
- 中原区丸子地区の「福祉協力委員制度」と日野市の事例は良く知っている。
- なぎさニュータウンは、マンションの中での見守りなので是非知りたい。
- 河原町の活動と、なぎさニュータウンの活動は、似ている点が多いのではないかと。
- 議論を踏まえ、まずは、地域包括支援センターと川崎市介護支援専門員連絡会にヒアリングするとともに、なぎさニュータウンを事務局で取材することにする。なお、地域包括センターについては、毎月第2火曜日に開催される「センター長会議」の後にヒアリングすることを想定している。

4 今後のスケジュールについて

- 次回は9月25日（水）。

5 その他

- マニュアルという呼び方でいいのか。次回以降に意見を聞きたい。

→12月までに、色々ネーミングについてのアイデアを出していきたい。

以上